



高村 岳樹 教授

主な研究分野

環境化学

分析化学

生物有機化学

環境と生体影響研究室

環境中の化学物質の生体影響を評価し、 環境の未来を予測しよう

主な研究テーマ

環境ホルモン、環境発がん性物質のバイオモニタリング

環境中には様々な化合物が存在していることが知られています。それらの中には発がんに関わるものや、ホルモン作用を有するものがあります。地域の環境(河川、大気、土壌)にどの程度の環境ホルモン物質、発がん物質等が存在するのかを明らかにします。

研究分野

環境

環境毒性化学

環境汚染物質の生体影響

環境汚染物質はどのように生体に影響を与えるのでしょうか?環境汚染物質が体内にとり込まれた時にDNAの細胞にどんな影響を与えるのでしょうか?細胞内DNAと汚染物質の相互作用を中心に明らかにします。

環境

生体影響化学

抗がん作用を示す新たな化合物の探索及び合成

環境に存在する天然化合物や新しい合成化学品の抗腫瘍活性をがん細胞や短期スクリーニング法を用いて検索を行います。

環境

薬品

水環境中の重金属イオンのモニタリング

重金属イオンの中には生態に有害な影響をもたらすものが多く存在します。これらの有害な重金属イオン(カドミウムやアルミニウムなど)の環境水中の濃度を経時的に測定し、その存在形態を明らかにします。

環境

環境毒性化学

環境汚染物質の除去方法の構築

有害な物質の存在状況が明らかになると、その除去方法の検討がしやすくなります。これまでに得られた多くの情報を元にし、粘土などを用いて環境汚染物質の除去方法を検討します。

環境

新素材